

## 「男性だからこそ」が活かせる面に目を向けて

こうした女性が多い職場では、かつて「男性の仕事」というイメージが強かった建築土木や機械、運輸などの業界で女性が働き始めたときと同じような問題があります。

例えば、男性のトイレや更衣室、制服がないといった物理的な不便さなどです。また、「男性の同僚がない」「女性のコミュニケーションスタイルになじめない」といった心理的な働きにくさを感じている男性も多いようです。

さらに、ネイリスト・着付け師などの美容サービスをはじめ、女性の顧客が多い職業では、男性からサービスを提供されることに抵抗を感じる人がいるなど、生理的、感覚的な問題もあります。

しかし、女性ばかりの職場で生じる問題も男性がいることで解決できる場合もあり、男性の特性が活きる場面もあります。例えば、病院や保育園では男性の患者や保護者から、「男性同士なので相談しやすい」「心強い」といった声もあがっています。

## その給与水準は「女性の仕事」だから？

こうした職業でもう一つ考えたいのは、給与の問題です。毎年発表される「ジェンダーギャップ指数」※1※2などでも指摘されているように、日本の賃金の男女格差は大きく、女性の賃金は男性の74.3%程度と、先進国の中ではかなり低いレベルなのです。

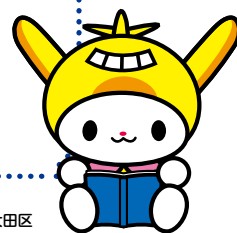
この格差は職種にも反映されていて、男性一般労働者(※2)の賃金の月額額は約33万8千円に対し、保育士約26万4千円、幼稚園教諭約32万4千円、准看護師約29万7千円(厚生労働省令和元年「賃金構造基本統計調査」)よりと、女性の仕事」というイメージの強い職種の賃金は、従事しているのが男性であつても全体的に低めです。この傾向が、男性従事者が増えない要因の一つなのかもしれません。職業選択する際の障壁となりうる課題として、物理的、心理的などの問題だけでなく、待遇などについても、社会全体で考えていく必要がありそうです。



## 性別ではなく一人ひとりの特性で仕事を選べる世の中に

「女性の仕事」「男性の仕事」と認識されてきた職業は数多くあります。その原因として「女性は優しい、人のお世話が好き」「男性は体力がある、理数系が得意」などといった、固定的な性別役割分担意識が影響していると思われる。

しかし、理数系の知識に強い女性もいれば、体力に自信はないが、人と関わることが好きという男性もいます。性別に関係なく、自身の能力や得意なことを見極め、希望の職業を自由に選択できる人が増えるといいですね。



©大田区

## エセの本棚から

### 『これからの男の子たちへ「男らしさ」から自由になるためのレッスン』

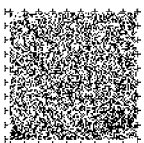
著者：太田 啓子  
出版社：大月書店



#### 【内容】

「男らしさ」の呪縛は何歳から始まる？  
わが子をセクハラ加害者にしないためには？  
性差別に怒りを燃やしつつ男子2人を育てる弁護士ママが悩みながら考えた、ジェンダー平等時代の子育て論。  
対談＝小島慶子(タレント・エッセイスト)、清田隆之(桃山商事代表)、星野俊樹(小学校教師)

表紙画像出典元：大月書店



※1…WEF(世界経済フォーラム)が毎年公表しているもので、経済活動や政治への参画度、教育水準、出生率や健康寿命などから算出される、男女格差を示す指標  
※2…一般労働者とは、短時間労働者(1日の所定労働時間が短い又は1日の所定労働時間が同じでも1週の所定労働日数が少ない労働者)以外の労働者をいう。